

発議第1号

令和2年11月27日

西海市議会議長 平野 直幸 様

提出者 西海市議会議員 浅田 直幸  
賛成者 西海市議会議員 田崎 耕太  
賛成者 西海市議会議員 田川 正毅  
賛成者 西海市議会議員 戸浦 善彦

新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見、誹謗中傷をなくし、  
誰もが幸せに暮らせるまちを実現するための決議

上記の議案を、別紙のとおり会議規則第14条第1項の規定に基づき、別紙の  
とおり提出します。

令和 - 2年11月27日 原案可決

西海市議会議長 平野直幸



新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見、誹謗中傷をなくし、誰もが幸せに暮らせるまちを実現するための決議

2019年12月上旬に中国・武漢で発生し、その後、世界的な流行に至った新型コロナウイルス感染症は、欧米諸国やインド、ブラジルなどを中心に今も感染者が増え続け、世界の感染者数は6,000万人を超えており、我が国においても都市部を中心に感染者が続発し、いまだ収束の兆しが見えない。

また、既存薬の転用を中心とした治療薬の承認やワクチンの開発が、欧米を中心とした国々で試みられているものの、実用化に至るまでには、まだ多くの時間を要するものと見込まれている。

この状況下において、人々が長い期間、治療法や予防策が確立されないことへの大きな不安や恐怖を抱えながら日々の生活を送る中で、感染者等に対する差別や偏見、誹謗中傷の風潮が生まれ、その結果、感染者や濃厚接触者にとどまらず、医療・介護従事者やその家族等の社会生活自体に支障を及ぼす程に事態が深刻化している。

この現状に照らすと、私達がこのまま差別や偏見等を看過する社会を容認すれば、感染者や濃厚接触者は情報を秘匿しようとして保健機関等への相談や医療機関での受診を控え、感染経路の把握を難しくし、医療機関や介護施設は従事者の減少でその機能を低下させることとなり、誰もが目標とする感染収束を逆に阻害してしまう本末転倒の結果をもたらすことになる。

感染防止のための行動制限や自粛偏重による大きな弊害を経験した今日、一人ひとりが正確な情報と知識に基づき、感染予防と経済活動とを両立させて行くことが求められていることから、今後は、「誰もが感染し得るのだ」ということを強く認識する必要がある。

西海市議会は、このことを市民一人ひとりが受け止め、互いに支え合う意識、

思いやりの心を持って感染者等に接することで、全ての市民の日々の生活における安心感を確保し、誰もが幸せに暮らせるまちを実現するため、下記のとおり決議する。

## 記

- (1) 何人に対しても、新型コロナウイルス感染症に感染したこと、又は感染の可能性があることを理由として、また、感染防止策を適切に講じていない等の批判を動機として、差別や偏見、誹謗中傷、プライバシーの侵害等を絶対に行わないこと。
- (2) 新型コロナウイルス感染症に関して個人情報を知り得たときは、極めて慎重に取り扱うべき情報であることを十分に認識した上で、その保護に努めること。

令和 年 月 日

西海市議会